

第2回水戸市まち・ひと・しごと創生有識者会議録

1 会議の名称 第2回水戸市まち・ひと・しごと創生有識者会議

2 開催日時 平成27年8月25日(火)午後1時30分～午後4時50分

3 開催場所 本庁舎前議会臨時庁舎 2階 全員協議会室

4 出席した者の氏名

(1)水戸市まち・ひと・しごと創生有識者会議委員

相川達也，赤津一徳，伊藤充朗，大久保博之，大蔵勇人，小田部卓，
加藤高蔵(代理)，川上美智子，佐川泰弘，佐藤平八郎，清水博，清水昌幸，
須田浩和，田山知賀子，出井滋信，任田正史，袴塚孝雄，原毅，三上靖彦，
宮内久江，向山路一(代理)，村中均，八木岡努，渡辺政明

(2)執行機関

三宅正人，長谷川昌人，三宅陽子，大関利明，飛田尚亨，板橋佳広

5 議題及び公開・非公開の別

(1) 「水戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略及び人口ビジョン」策定に向け
た市民参加によるこれまでの取組について(公開)

(2) 水戸市人口ビジョン中間報告について(公開)

(3) 水戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略骨子について(公開)

(4) その他(公開)

6 非公開の理由 適用なし

7 傍聴人の数(公開した場合に限る。) 5人

8 会議資料の名称

資料① 水戸市まち・ひと・しごと創生有識者会議委員名簿

資料② 「水戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略及び人口ビジョン」策定に向
けた市民参加によるこれまでの取組

資料③ 水戸市人口ビジョン中間報告

資料④ 水戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略骨子

資料⑤ 水戸市まち・ひと・しごと創生有識者会議スケジュール(案)

9 発言の内容

【執行機関】 それでは、定刻前ではございますが、委員の皆様もお揃いでございますので、ただ今から、第2回水戸市まち・ひと・しごと創生有識者会議を開催させていただきます。

本日は、御多用の折にもかかわらずお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

また、本日は、市側から関係課長に出席をいただいているところでございます。

なお、報道のカメラが入りますので、御了承願います。

本日は、議事に入ります前に、委員の変更がございましたので、事務局より、会議資料①に基づきまして、委員の皆様を、50音順で申し訳ございませんが、御紹介をさせていただきます。

それでは、まず、水戸市議会議員 伊藤充朗様でございます。

続きまして、水戸観光協会会長 加藤高蔵様の代理・寫様でございます。

続きまして、日本政策投資銀行地域企画部長 清水博様でございます。

続きまして、水戸市議会議員 須田浩和様でございます。

続きまして、水戸市議会議員 袴塚孝雄様でございます。

続きまして、東日本旅客鉄道水戸支社長 向山路一様の代理の増子様でございます。

続きまして、水戸市議会議員 渡辺政明様でございます。

以上、7名の委員の皆様を御紹介させていただきました。

それでは、座長に議事の進行をお願いいたします。

___座長、よろしく願いいたします。

【座長】 皆さん、こんにちは。

本日、第2回目の会議でございますが、今日が実質的に戦略等の中身についての検討を行う場ということになっております。かなり長丁場になることも予測されます。適宜、休憩を取りながら進めたいと思いますので、よろしく願いいたします。

まず、本会議は原則公開としておりまして、本日も傍聴希望の方が5名見られているということですので、入室を認めたいと思います。

[傍聴人入室]

【座長】 それでは、議事に先立ちまして、本日、大関委員、齊藤委員、保立委員、和田委員が所用のため欠席されるとの連絡を受けておりますので、御報告を申し上げます。

また、本日の会議録の署名人につきましては、____委員，____委員に
お願いしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、議事に入りたいと思います。

お手元に議事次第も配付されているかと思いますが、まず、(1)の「水
戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略及び人口ビジョン」策定に向けた市
民参加によるこれまでの取組について、事務局から説明をお願いいたしま
す。

(事務局 資料②に基づき説明)

【座長】前回、第1回の会議は5月18日に開催をいたしました。それ以降、
今日までの間に、今、説明のありました資料にある2、3、4、5のよう
な調査等が行われてきたという説明でございます。

まだ結果は出ておらず、最終結果についてはホームページ等で公表する
ということでございますが、ただいまの説明につきまして、御質問や御意
見がございましたらお願いいたします。

よろしいでしょうか。

それでは、次にまいりたいと思います。

続きまして、次第(2)の水戸市人口ビジョン中間報告についてでござい
ます。引き続き、事務局から説明をお願いいたします。

(事務局 資料③に基づき説明)

【座長】総合戦略とあわせて、ある意味、その前提として人口ビジョンとい
うのをつくるということになっておりまして、この作業をやっているところ
ですが、今のところ、調査等が進んでいるのはここまでの段階であるとい
うことで、中間報告でございます。

あくまで中間報告という前提ではございますが、ただいまの説明につ
きまして、御質問、御意見がございましたらお願いいたします。

____委員どうぞ。

【____委員】今、座長から中間報告ということですのでいいのですが、当然ながら、
しごとの創出やその労働力というものを考えた時に、人口ビジョンは、
当然、水戸市だけのものではなくて、水戸市周辺の人口のビジョンとい
うか、人口の流入、流出も必要であると思います。

そうすると、しごとの創出に関するデータとして、市周辺の人口、那珂
市がどうなっている、ひたちなか市がどうなっているというのは、これは
水戸市が県都として必要なものだと思っていますから、そういうものの調
査も必要かなと、水戸独自のまち・ひと・しごと創生をするということな

ら、まず、1点目。

それから、当然ながら、それに付随する国・県の状況です。県北から県南に人が流れている状況などもきちんと把握する必要があると思っています。

そしてまた、ここには、人口に関して、折れ線グラフではありますが、これからの出生率やいろいろなものを分かりやすく報告するための人口ピラミッドというものがあると思います。よく逆三角形で下が小さくなっている、今の日本の場合はキノコ型になっている。そういうような人口ピラミッドによる推計などもあわせて、これからの人口の推移を見るためには必要だと思えますし、他市事例などを見ても、今度、地区別人口、例えば、農村地区での人口の減少、まちなかの人口の増加、それから、三の丸地区とか五軒地区とか、中心市街地の人口動態などをきちんと把握しないと、その部分で、次の人の張りつき等に与えるきちんとした分析ができないと思うので、その3点に関して、まだ中間発表ということですから、これからの基本情報としては載せるべきかと思えますので、ぜひ御検討ください。

【座長】恐らく、国が出しているフォーマットに従えばこんなものということかと思いますが、ここでの議論やこれからのことを考えるとそういうデータが必要だという御指摘かと思いますが、事務局から返答はありますか。

【執行機関】____委員の御指摘を踏まえまして、今後、そういった分析も十分に進めていきたいと考えております。

【____委員】他市事例を見ても、恐らくそういうところもできてきていると思います。そうすると、国からのフォーマットの中にそういうものが入っている部分が多いと思うのです。まだその準備段階まで行っていないのだと思うのです。ですから、そこら辺のきちんとした把握をよろしく願います。

【座長】他の委員の皆様、いかがでしょうか。

____委員どうぞ。

【____委員】ただいまの資料5ページの年齢階級別人口移動の推移、男性、女性となっておりますが、これを見ると赤は一番最近ですね。青の方の昔と比べると、結果的に、学生の頃に県外に行っても、しっかり水戸に戻ってきていると読んでいいのかなと。どうでしょうかね、男性ね。女性は、昔、高校生がたくさん、学生は集まっていたけれども、最近はそんなに集まらないけれども、それでも男性と同じように、就職すると水戸に戻ってきているというように見えるのですが、こういう評価でいいのかということ。それから、7ページのところで、そういった実際の転入・転出は、どこの市町村、どこの地域とのやり取りが多いかというものがありますが、先ほど、____委員からもお話がございましたように、多くのやり取りというのは近隣の市町村とのやり取りが多いわけですが、前回もお話ししましたが、こ

の近隣の市町村と戦って、時間とお金を浪費しても、広域的に見たら同じ地域ですので、この近くのところの足した、引いたがどうかということよりも、もっと大きなエリアで見た、東京とどう闘うかとか、周りの県とどう闘うかとか、そういうものがもうちょっとリアルに分かる情報があったらなと思いました。

その辺が後々の人口推計をする時の社会移動をどう見るかという時に、それが何%、その何%というのが、例えば、隣の町との話は別にどうでもよくて、それで人が少し減ったって、これは同じ地域だから良いと思うのですが、しっかり東京から何%戻しますよという戦略につながるような数字の組み込みができればなと思っております。

【座長】 2点、御指摘がありました。1点目について、今、回答できそうであればお願いします。

【執行機関】 1点目、____委員からの御指摘といいますか、御意見、男女とも学生の時に入ってきて、就職の時に戻ってくるというような読み方でいいかというお話だったかと思いますが、まず、男性の上のグラフを御覧いただきますと、赤、2005年から2010年の移動に関して見ますと、10~14歳が15~19歳になる時にはプラス、大学入学等に伴いまして水戸市へ入ってきている数が多い状況になっております。

ただ、22歳、大学卒業時にマイナスになっているということなので、その幅はマイナスの方が多いいことから、入ってきた人数よりも出ていっている人数がこの時点では多いような状況が読み取れます。

また、その後ですが、20~24歳が25~29歳になる時点でまたプラスに転じて、その後、30歳代等もプラスになっておりますので、これは____委員が御指摘のとおり、就職等によって水戸市へまた戻ってきている方がいるというような、想定範囲になってしまうのですが、そういうことがグラフ上考えられると認識しております。

また、2点目、同じ地域内ではなくて、東京ですとか他県への人口移動の状況等につきましても、こちらのグラフでは県外等ということで一括りにしてしまっておりますが、県の移動につきましてもデータ等を揃えまして、しっかり分析を行ってまいりたいと考えております。

【座長】 他の委員の皆様、いかがでしょうか。

ちなみに、1点だけ、教えていただきたいのですが、11ページのグラフがありますが、ここにおいては、合計特殊出生率は幾つでカウントしてこの数字予測になっておりますでしょうか。

【執行機関】 こちらは、国立社会保障・人口問題研究所と日本創成会議がそれぞれ実施した推計をそのまま用いているものでございますが、国立社会保障・人口問題研究所の推計では、合計特殊出生率というものをを用いない推計方法をとっております。将来の子ども女性比という考え方をを用いて国立社

会保障・人口問題研究所では推計をしております、0－4歳人口と15～49歳の女性人口との比率を用いまして子どもの数の推計を実施しているような状況でございます。

【座長】分かりました。ということで、次の資料とちょっとずれがあるということですね。分かりました。

____委員どうぞ。

【____委員】資料の12ページのところで、老年人口と生産年齢人口と年少人口が、これまでトラッドな区分けではあると思うのですが、実際、0～14歳が年少人口になっていますが、今、高校を卒業して働かれる人は半分以下だと確か認識しておりますし、それも含めて考えますと、このトラッドな区割りだけでは現実のところが見えにくいということがあろうかと思えます。

それから、現実、平均余命も含めて、平均寿命が90歳とかという話になってきた時、この先25年とか30年というスパンで見た時に、それがどのぐらいまでになるのか。たしか、推計でいくと、90歳以上のところの女性はかなり多い割合になると思っております、現実どのぐらいになるのかということも含めてと、それから、高齢者の就業の割合が、本当に65歳以下は生産年齢ではないのかということも含めて考えますと、少しここら辺の3区分についても、現実在即するような見方で切り直してみると見え方が違ってくるかと思えますので、もし可能であればぜひトライして頂ければと思います。

【執行機関】____委員の御指摘のとおり、18歳ですとか20歳であったり、そういった区分、また、75歳以上の老年人口に区切ったものとか、そういった区分につきましても、今後、設定を変えまして、推計、そして、考察等を行ってまいりたいと考えております。

【座長】他に人口ビジョンについていかがでしょうか。

主に情報の出し方とか指標の取り方についての御意見、御質問があったかと思えますが、まだこれも中間ということですので、可能な限り、フォロー、対応をしていただければと思います。

それでは、ここからがますます本題かとは思いますが、では、次にまいりたいと思います。

(3)番目、水戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略の骨子についてでございます。こちらについても、まず、事務局から説明をお願いいたします。

(事務局 資料④に基づき説明)

【座長】全体的な骨子というところで、大きな基本目標、それから施策の体系、その体系の中での個別の施策でありますとかKPIがある程度盛り込まれたものとなっているところがございます。

大きな話から細かいところまで、委員の皆様、たくさんあるかと思いますが、もちろん、いろいろなテーマが全部つながってくるべきものだと思いますのですが、どうでしょう、全体像みたいところでまず御意見を伺うということによろしいでしょうか。

基本的な考え方であるとか視点が1ページから2ページあたりに書かれておりますが、あまり細かいところというよりは、全体的な話としてまず御意見等ございましたら出していただいた方がいいかなという気もしますが。

____委員どうぞ。

【____委員】一応、大きい話で、PDCAという形でやっていくのに対して、その目標値を設定していくKPIなどがここに出てきているのですが、この時点で、この冊子でできているものというのが、イメージでも何でもいいのですが、どれぐらいこれはでき上がっていて、これは固めるだけという状況で出てきているのか。というのは、これで固まるぐらいだったら、さっきの人口動態のことなんていうのはもう今さら要らなくなっていくわけで、そういう部分では、まだまだここから項目が足される、例えば、水戸はこういう状況にあるからなどということによって足されることがあるのか、それともないのか。これを固めていって、これに小さな肉づけだけで終わっていくのか。これはどの状況なのか説明していただきたいと思うのですが。

【執行機関】あくまでもこちらは骨子でございますので、施策の体系、今後の方向性につきましては、こちらで固めておりますが、御意見をいただきまして、今後、総合戦略の案をつくっていく中で、想定される事業であったりとか、KPIの考え方であったりとかというものについては、順次、膨らませていったり、意見を反映させながら見直していくことを想定しております。

【座長】____委員どうぞ。

【____委員】確認なのですが、そうすると、例えば、想定される主な事業の中からいくつかピックアップされてKPIが出てきているということですが、その中の主な事業の中に、さらなる新たなものが、例えば、プログラムで言うと、11月までにある程度固まったとすれば、その間に、想定される主な事業の中でこういうものもやっていって、KPIのこの項目、今、例えば7ページで言えば、下の方の段に行くと2項目しかないのが、今度は3項目になってという可能性まであるという、完全に骨子でありますよということか、それだけ確認させてください。

【執行機関】____委員のおっしゃるとおり、今後、意見をいただきながら、事業についても、そして、KPIについても、見直しは順次行っていく考えでございます。

【座長】____委員どうぞ。

【___委員】前段で御紹介いただきました市民参加によるこれまでの取組の中に、最後に、「水戸まちクリエイター・ワークショップ」というのがございました。アンケートの他に、ワークショップ形式でやったのはこれだけで、きっと、クリエイター・ワークショップが、何か特別に意味があるものとしてやられたのではないかと思うのです。ならば、この総合戦略の中に、クリエイターとか、クリエイティブとか、ベンチャーとか、イノベーションとか、チャレンジングとか、あとは、もちろん芸術館もありますからアートとか、こういう色合いがきっと水戸のまちにとって大切だからそういうワークショップをやったのではないかと思うので、そういったクリエイティブとかアートの色合いをもっと戦略の中に織り込んでいただければなと思いました。

【座長】答えというか、今のは御意見ということでよろしいでしょうか。
___委員どうぞ。

【___委員】まず、具体的施策の(5)のところですが、自主・自立性の強化と広域連携による都市力向上の中で、中核市移行に向けた取組を進めるということをしちんと位置づけされたことに関しまして、前回の意見を踏まえて、きちんこのような形になったことは本当に有り難く、また評価をいたします。

細かいことは、また後でお話ししたいと思うのですが、今の夢のような総合戦略骨子を実現するためには、どうしてもお金が伴うわけです。この辺のところ、地方創生の新交付金という国の交付金もありますが、どのような形でそれを本当に実現するのか、その辺はどうなのでしょう。どんなふうにお考えになっているのか。そういうものを使うからこのような形が実現できるのでしょうか。それとも、行財政改革等によりどこかをスクラップしてやるのでしょうか。その辺の大きなところから、お話がなかったものですから、まずは教えていただきたいと思います。

【執行機関】ただいまの___委員からの財政に関する御質問でございますが、国では新型交付金を創設していくということで報道がされております。今回、骨子の中で想定される主な事業を掲げさせていただいておりますが、まだ詳細が明らかにはなっていないので、それがどこまで活用できるのかというのは、今後、そういった国の制度を見極めながら判断していかなければならない部分かと考えております。

全体として、その新型交付金の他に、地方交付税等での措置というものも国からの財政支援という部分であるというようなこともございますので、そういった財源の部分も活用して事業を進めていきます。当然、内部での行財政改革等も進めながら、そういった財源の確保も進めて事業を推進していくという考えでございます。

【座長】 ____委員，よろしいですか。

新型交付金は，今，概算要求もやっているところなので分からないということかと思うのですが，金額の問題ではなくて，かなり大きなものが期待できるのか，そうでもないのかみたいなあたりについては，感触はお持ちですか。

【執行機関】金額，規模等に関してですが，全国の市町村・県も含めて，今回，総合戦略をつくり，そこに国からの支援ということになりますので，私見で申し訳ないですが，さほど大きな支援にならないのではないかと考えておりますが，実際のところ，国の予算になりますので，そこは御了承願いたいと思います。

【座長】期待したいところはあるけれども，あまり期待できないかもしれないということかと思えます。

他の委員の皆様，いかがでしょうか。

____委員どうぞ。

【____委員】2点，コメントさせていただきたいと思えます。

1点目は，10ページ目の上の合計特殊出生率と子育て支援施策の満足度というところで，これは非常に大事な指標だと思っていて，よく地方創生ということになると，隣の県・市とのパイの奪い合いみたいなことをおっしゃる方もいるのですが，多分，ここの部分については，どこの県・市でも努力できる場所だと。時間軸で見えていくと，トータルで全てプラスサムに持っていくことができる指標だと思いますし，日本全体でも，今世紀末，成り行きでは人口は5,000万人を割ってしまうと言われてますから，そのためには生み・育てるところが安心してできる環境をつくっていくことはどこでも努力できることですし，一番大事なところだろうと思えます。

特に，水戸市の場合，第三次産業がウエイト的に非常に高いのが特徴だったと思えますので，そういう意味では，人が多くいることによって初めてサービス産業というのは成り立つところがあると思えますので，そういう意味においても非常に大事な指標ではないかなと感じているところが1点目でございます。

もう1点は，ここに書いている施策はどれもすごく有効だと思いますが，もう1つは，これをどうやって進めるかというやり方の議論があると思えます。特に，賑わい創出という部分になってくると，行政だけで担い切れるものでもなく，特に民間の活用というか，民間活力をうまく使っていくということが大事だと思います。多分，今，水戸市さんが公共サービスを新たに実施される時には，そういった調査も同時にやられて選択をされていると思えますが，今後こういうものをしていくに当たっては，ますますこういった検討を具体的に進めるのが大事かなと思えます。参考にな

る例として申し上げますと、横浜市さんが、具体的に民間に発注する前に、これを民間に出したらどういう募集があるか、提案があるかということを経済の段階で調査をするという、サウンディング調査と言われて、割と有名になりましたが、そういうことをやって、そういう面白い提案が出そうなら前に進めようという場合もあれば、その程度なら直轄でやってしまおうということもありまして、そういったやり方も相当洗練されてきているというところがありますので、特に、そういうことも含めて、民間の活用を考えながらこういった事業を効果的に進めていただくのがいいのかなと思いました。

以上、2点、コメントでございます。

【座長】では、事務局、返答はコメントでよろしければ。

【執行機関】今後、施策の推進に当たりましても参考にさせていただきたいと思っております。

【座長】____委員どうぞ。

【____委員】全体的な受け止め方で感じたことを申し上げたいと思うのですが、実際問題として、1,718という全国にある市町村の中で、合計特殊出生率2.1という数字が出ていましたが、基本的には2.07という数字を確保しないと日本の人口も1億人を割ってしまう。こういう状況の中で、先ほど、委員から、隣接地域、広域という話がありましたが、これからの話というのは、人口を減らさないための市町村ごとの競争力というか、それぞれの自治体が地方創生の施策をいかに実現していくかということだと思っています。そういう面では、きちんとした政策を立てる必要性があると思っています。

その基本にあるのは、さまざまな属性の方を認めていくというか、受け入れていくまちをつくっていく。渋谷だとか札幌だとかという形の中で、セクシャルマイノリティの話ももちろんありました。そういう面では、それが是か非かということは別問題として、さまざまな形での属性の方を認め、受け入れていくまちづくりが基本的になくってはならないと思っています。

先ほど申し上げなかったのですが、最初のアンケート調査のところに市民アンケートというのがございました。その中で、電子うんぬんとか、市民センターがどうのこうのという話がありましたが、実際のところ、例えば、老老介護で、居宅で介護されている方であるとか、高齢者の単独世帯であるとか、要するに、住民としての足があれば自分はまちなかに出ていけるのですよ、こういう方が多いのです。これは障害者の方もそうだと思います。この方たちが創生をうんぬんというよりも、その方たちが今願っていることを我々が将来にわたっての創生の施策として実現して、それを施策にしていくことがものすごく大事なことだと思っています。

そういう面では、市民センターに行ってアンケートに記入できる方は元気な方なのです。幼少期から育った所で一生涯を終えていただくということが政治の根幹ですから、そういう面では、前に戻って申し訳ないですが、市民アンケートについても、障害者であるとか、高齢者であるとか、老老介護で居宅にいらっしゃる方も含めて、どういう施策があったり、きちんとしたノウハウがあれば、自分は元気に地域の中で動くことができるのだと。健康寿命の話があったりしますが、基本的には、元気なお年寄りがまちなかをかっ歩してもらえようということが理想的だと思っていますから、そういう方の願いというか、御不自由に思っていることもつまびらかにアンケートとして捉えていただきたいと思います。

国からは、創生事業も後押しの支援がありまして、今日も交通の話がありました。改正した地域交通活性化再生法が明日施行になります。そういう面では、バス路線の再編であるとか、次世代型の路面電車、いわゆるLRTの施策にも後押しをしてくれる、事業としてお金を出してくれるという方向で、明日、施行されると聞いていますので、そういう面では、水戸市の一部の方では、まちなかであっても、買い物をするのにバスで行かなければならないということがあると思います。今日、茨城交通の方がいらっしゃっているので、例えば、デマンド型のタクシーであるとか、バスであるとか、そういう住民の足、そして、利便性を確保できるようなことを含めてもお願いして、位置付けていただければ有り難いかなと思っています。

【座長】コメントありますか。よろしければ、要望ということでよろしいでしょうか。

【執行機関】まず、1点目の高齢者や障害者の方の意見や要望とかも分析が必要だという御意見につきましては、今後、そういう希望についても調査をかけられるかどうかとあわせ、既存調査のもので、意向が分かるものがあるか、こちらで調査をして、ぜひ戦略にも反映をしていきたいと思っています。

それから、もう1点の公共交通の活性化や、デマンド型タクシーなど、高齢者や障害者の方も利用しやすいようなまちなか交通体系につきましては、基本目標Ⅳにございます「安全で安心、誰もが快適に暮らせるまちを創る」の中の具体的施策（1）で、都市機能の集積と交通ネットワークの形成という柱がございまして、その柱の中で、公共交通やまちなか交通ネットワークの構築についてを位置付けておりますので、その中で検討させていただければと考えております。

【委員】今、答弁はいただいたのですが、健常者も障害者も、あらゆる属性の方を差別しないで、創生事業という骨格は分かるのです。ただ、まちなかの空間を創る場合には、いろいろな形で空間に対して障害になるということもあるわけです。それは高齢者の方とか障害者の方が自由に歩行空間を

利用できるということが一番大事なのであって、高齢者という位置付けよりも、障害者という位置付けが方向的に意欲が見られなかった。こういうことも含めてそういうお話をさせていただきました。

【座長】他の委員の皆様、いかがでしょうか。

_____委員どうぞ。

【_____委員】資料④の策定の趣旨のところにも、冒頭、歴史と伝統、芸術・文化、豊かな自然等々、水戸市の個性、魅力を高めるという言葉が出てきます。そして、この中に随分観光という言葉も出てくるのですが、用語なのですが、例えば、偕楽園に来て梅まつりを見たら終わりとか、弘道館に行ったら終わりというような観光ではなくて、新しい観光の形を考えていただきたいと思います。1つには、これだけいいものがある水戸を感じてもらおうというような仕組みをぜひつくっていただきたい。せっかく大手門などの歴史的建造物の復元をなさっているわけですので、ぜひ来たら歩いていただくような計画を実現していただきたい。できたら、あるがままの水戸を感じていただくという、多分、コンセプトに観光ということ自体が映っていると思うのです。

そして、もう1つは、日本全国で人口が減っていますので、外国人にも楽しんでいただけるようなまちづくりをしていただきたいなと思っています。千波湖も見るだけではなくて、あそこは歩いていただくと、外から来た人は本当にすばらしい場所で、駅からこんな近くにこんなすばらしい自然があると感心して帰られます。

そして、梅まつりばかりではなくて、偕楽園から見下ろした4月の満開の桜の千波湖も桃源郷のようで非常に美しい景観がありますので、今までと違った観光という概念で取り組んでいただきたいと思っています。

そして、もう1つ、せっかく水戸芸術館があるので、今、日比野克彦さんを中心にいろいろなことをやっていますが、若手の芸術家の卵たちを集めてまちなかで活動できるという計画ができればなと思っています。

その折には、空き家の活用とか、今、県がやっている県北アートフェスティバルでいろいろ計画されていますが、同じことをやらなくても結構ですが、水戸ならではの良い所があるので、そういった芸術活動の中で空き家も活用するような提案ができればと要望であります。

【座長】では、要望ということで、順に回していきたいと思います。

_____委員どうぞ。

【_____委員】今回の創生では、人を増やすということが一番重要だと思います。合計特殊出生率を増やすというところで、先ほど、この数値を上げるのは非常に重要だというお話がありましたが、水戸の場合には待機児童がまだ多いです。そこをゼロに持っていくという目標値はぜひ入れていただきたいのと、もう1つ、現在、保育士が足りないという問題があります。

看護師の数、基準値とか目標値がありますが、今後、保育士が取り合いになるだろうということで、その辺りもぜひきちんと数を確保するのだということを入れていただけると良いと思います。

それから、もう1つの人口増では定住という問題を今回入れていただいています。水戸市は県北地域から人を呼び込むというのは割合容易かもしれませんが、もう少し大きく、東京都とか都市圏から人を呼び込む。元気な高齢者とか、あるいは、地方で活躍したいという若者を積極的に呼び込む施策をぜひ入れていただきたいと思います。

今、____委員から空き家というのがありますが、空き家も相当増えています。空き家対策といいますか、空き店舗だけではなくて、空き家の活用も入れていく必要があるのかなと思っています。

あと、教育委員会に関係するものがありましたので、12ページに小中一貫校1校とか、放課後学力サポート事業導入校数1校、これは今後増える見込みがあるということで多分上がってきているのだろうとは思いますが、それが2校になり3校になりで、それがどの程度の効果なのかと思い、他にもう少し何か良い指標がないかなと思ったところがございます。

【座長】以上、何点か要望ということです。

【執行機関】まず、____委員の待機児童ゼロにつきましては、水戸市第6次総合計画におきまして、平成29年度に待機児童ゼロという目標を掲げておりますので、この計画は平成31年度までの計画なので、今回、ピックアップはしておりませんが、取り組んでいく施策としては入れ込んでまいりたいと考えております。

【____委員】保育士の数の確保は今すごく深刻で、どんどん東京に流れているのです。それで、地域では、保育所を増設しても人を確保できないという問題が出てきています。

【執行機関】そのとおりでございます。そちらにつきましては、基本目標Ⅳの具体的施策(3)の中で、想定される主な事業の中に、医療・福祉分野における人材の確保、雇用の促進ということで施策を位置付けてまいりたいと考えております。

また、空き家対策につきましては、同じく基本目標Ⅳの具体的施策(2)や、それから、基本目標Ⅱの新たなひとの流れを生み出すの具体的施策(1)、水戸への移住・定住促進の中で、想定される主な事業といたしまして、住生活支援情報提供事業などにおいて空き家対策もカバーしてまいりたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

【座長】個別の施策については、担当課も来られているので、後ほど細かく質問等もしていただければと思います。

____委員どうぞ。

【___委員】今、___委員がおっしゃっていた、若い人たちをどうやって呼び込んでくるかというのがあると思いますが、もう一方、若い人材の流出をどうやって防ぐかといった観点も大事かなど。今までもそういう御意見も出ましたし、事務局でもそういうお考えというのはあると思いますが、例えば、20歳から24歳、あるいは25歳から29歳の転出入の状況を見てみると、20歳を過ぎて、一旦出て行って、また25歳過ぎたら戻ってくるという傾向は見えますが、その他のデータとかも照らし合わせてみると、戻ってくるというのは、どちらかというと、東京に出た人が戻ってくるというのの中にはあるかもしれませんが、周辺の自治体、特に県北地域から入ってきているというのが多くて、特に、東京との増減で見ると、明らかに東京の方に流出している数の方が多いと推測されます。これは、これから社会人として1つの重要な生産人口になっていく人たちがこうやって流出していくというのは非常にもったいないという気がしますし、そういう人たちがまた今度家庭を持って、子どもをつくって、それが出生率に跳ね返らなくても出生数に跳ね返ってくるという非常に重要な年齢層ですので、当然、呼び込んでくるという以外に、流出をどうやって防ぐかといった観点も必要なのかなと思います。

大学で東京の方に行くのは別に否定すべきことではないのですが、一旦東京に出てしまうと大体戻ってこないというケースが多いということで、これをいかに戻ってくるようにするかといったことも、その中では非常に重要なのかなと思います。

東京の大学というと、まず、向こうで下宿してというのがほとんどの人のケースかと思いますが、水戸というのは通えない地理的条件ではないと考えます。そこを何らかの行政によるサポートというか、例えば、経済面であれば、東京の方の大学に行く人の定期券を補助するとか、そういう施策もあっていいのかなど。そういう人たちが東京に下宿して、そのまま東京に行ってしまうことによる経済的な損失と、4年間、定期券を補助して、つなぎ止めておく割合が多くなることによる経済的な損失の限度とか、その辺は何らかのシミュレーションができそうかなと思いますし、そういう1つの考え方としては、何らかの施策のやりようというのは、そういう経済的な損得の1つの指標でもつくれるのかなとは思いますが、私の同じ年代の周りの人たちが、子どもがちょうど大学に行って、あるいは卒業してという年代の人が多くて、話を聞くと、東京へ出ていったらもう全然戻ってこないという話をよく聞くものですから、そういう危機感を持っている次第でございます。

【座長】___委員どうぞ。

【___委員】個々の施策については後ほどにして、全体的な体系の中で、今、水戸市が魁のまち水戸であり、県都水戸であり、そして、芸術や教育や、そし

て、すばらしい観光もあるという状況の中で、今、ダイバーシティという言葉がありますが、この先の水戸市の像の中に、多様性を認め合うことが非常に先見性のある新しいまちづくりにとても大事なことはないかと私は思っております。いみじくも、今、____委員がおっしゃったセクシャルマイノリティの部分もそうですし、障害者も高齢者もお互いに認め合って、そして、お互いにそこで生き生きとそれぞれが力を出し合って前向きに生きていくというダイバーシティ、多様性を認め合うまちづくりがこの施策の体系の中でもう少しきちんと形づくったらよろしいのかなと思います。

例えば、多様な雇用の場の創出というところに多様という言葉が出ていますが、今の時代では考えられないような50年、100年先の水戸を思った時に、いろいろな人がいて、いろいろな人が認め合っていると思っております。ワーク・ライフ・バランスもその実現のための1つですが、内閣府における男女共同参画の基本計画の教育の中に、学校の中でダイバーシティ教育が位置付けられていることもありますので、水戸としては、ダイバーシティ、その言葉がまだでしたら、多様性を認め合うとか、そういう文言を大きな枠の中に入れていくことが、まず、1つの方向性の中でお願いできればと思います。

【執行機関】御意見を踏まえまして、文章や施策の中などで反映できるか、今後、戦略の案をつくっていく中で検討させていただきたいと思っております。

御意見ありがとうございます。

【____委員】そういうお考えがあるかどうか伺いたい。

【執行機関】____委員のおっしゃるとおり、多様性を認め合うというのは当然必要なことだと考えておりますので、前向きに入れ込めるような形で検討してまいりたいと思っております。

【座長】____委員どうぞ。

【____委員】この会議が始まった最初の時にも言わせていただいたのですが、まち・ひと・しごと創生のさまざまな施策を串刺しの焼き鳥の串とすれば、その串は人口問題だと思うのです。先ほどもたくさん出ていましたが、18歳から40歳までの女性をその地域に増やす、あるいは減らさないという施策を中心に考えて、魅力ある、活力ある中心商店街も必要だし、おしゃれして歩けるまちも必要ですし、先ほど出てきた交流人口やイベントも必要ですし、それから、女性が東京に行かなくても勉強のできるようなeラーニングとかICTを使った学校の連携とか、あるいは、女性がキャリアを持って働ける片仮名の職業づくりとか、あるいは、子育て中も子育てしながら働けるワークシェアリングとかライフスタイルをつくるとか、あるいは、子育てしやすい環境というのは、先ほど、____委員が隣から待機児童はなくなりますよという話はお聞きしたのですが、もろもろ含めて、これは人口問題に尽きると思うのです。できるだけそこに焦点を当てて、この

まちから 18 歳から 40 歳までの人をできるだけ増やして減らさない、この施策をぜひお願いしたい。産官学でやっていかなければいけないと思います。

【座長】付随して、私もいいですか。

今、_____委員がおっしゃったとおりなのですが、先月、お送りいただいた資料一式がありまして、その中にビッグデータを分析したものもありましたが、そういう中で若者の失業率が非常に高いです。水戸に限ったことではなくて、全国的に同じようなことがあって、原因はいろいろ言われているようですが、そういうところをターゲットにして、キーワード的には、_____委員がおっしゃったように、芸術・文化とか、教育、観光というのは出てくるのですが、そういったそれぞれの分野で何を行えば若者が安定的に収入を得られる職ができるのか。そのこととプラスして子育て政策をやって、安心して生み育てられるという水戸市ができていくのか。それに加えてダイバーシティという問題も出てくるとは思いますが、ここに好循環と書いてありますが、好循環を生み出すストーリーがあまり見えない。水戸市のことだけではないかもしれませんが、要するに、今までのプロセスでは、各部署から提案をいただきまして、それをとりあえず置きましたというのは理解できるのですが、この趣旨であるとか基本的な考え方に書いてあるようなことが、こういう一連のことをやった結果、こううまく回っていくのですよという何かストーリーが必要なのではないかなと強く思います。

それで、全国一斉に総合戦略は出てくるわけですから、こう見て、市民一般、あるいは学生も見て、ここの市はいいねとかという目で見てもらうということが大事なところだと思いますので、ただ並べただけではなくて、貫いて、こういうことでうまく回っていくのではないのでしょうか、どうですか、皆さん、というような文章のつくり方とか話のつくり方をぜひ意識していただければと思っています。

_____委員どうぞ。

【_____委員】ハローワーク水戸の現状をお話ししたいと思うのですが、現在の管轄は 7 市町村あります。直近の 6 月の数字なのでございますが、今、ハローワークに出ている求人ですが、有効求人が 6 月で 1 万人をちょっと切るぐらい、9,600 人ぐらいでございます。この中で正規の社員の求人がどのくらいかといいますと、約 4 割ちょっとです。数字で言いますと 44.1%でございます。それ以外はパート、それから派遣、それから契約社員といった非正規の求人が占めております。

逆に、ハローワーク水戸にいらっしゃっている求職者、仕事を求めている方ですが、これが 6 月現在でございますが、約 8,300 人ぐらいいらっしゃいます。そのうちの 66%の方が生活の安定のために正規の社員を希望し

ているということなのです。

そういうことで、ミスマッチというか、こういうギャップがあるものから、なかなか仕事が決まらなくて滞留してしまうというのが現状です。

今、ハローワーク水戸における有効求人倍率はよく新聞等で出てきておりますが、1.15倍ということで、100人の求職者に対して115人分の求人があるということですが、では、正規の社員に限って見るということになりますと、0.77倍ということで、100人の求職者に対して77人分の求人しかないということになります。

先ほど、こちらを見させていただきましたが、若い世代が安心して働けるよう雇用の場を創出となっておりますが、そういう安定した仕事、正規の社員といった求人の確保がこれから重要になってくると思います。

本当に微々たるものなのですが、水戸市とハローワークは前から連携を図りまして、一緒に求人開拓に回ったりとかやっておりますが、企業さんでも、長期の受注がないとか、待遇の面で難しいとか、コストの面でいろいろ難しいとか、いろいろありまして、求人を確保するのは難しいというのが現状でございます。ただ、ここの部分を増やしていかないと若者も安定した生活ができないということになります。

皆さん、一度、ハローワークを見ていただければ分かると思いますが、昔は中高年の方が非常に多かったです。今は逆に、非常に若い方が昼間からいらっしゃっておりますので、皆さん、非常にびっくりすると思うのですが、一度、機会があったら見ていただきたいと思います。

それと、もう1つ、女性の活躍促進ということで、これから保育と仕事を両立した支援をいろいろやっていかなければならないということで考えております。ハローワークは水戸市などと連携を図りながら、これから保育をしながら仕事に出たいという方に対して、再就職の支援のセミナーなどを開催しております。

それと、さっき____委員から出ておりました保育の人手不足の問題ですが、これも本当に遅かったのですが、来月から、水戸市の幼児教育課と連携を図りまして、公立の保育所を貸していただき見学会を開催することになっております。本当に微々たる取組ですが、連携を図りながら進めていかないとなかなか難しい部分があるということになります。

【座長】何かコメントありますか。

____委員どうぞ。

【____委員】今、施策の体系等の御説明をいただき、また、委員の皆様の本当に前向きな、積極的な御意見等をいただいて、これは5年のスパンなのですが、何とかこれを具体的な形として成し遂げなければならぬと改めて感じたところでございます。

ちょっとお聞きしたいのですが、具体的施策として、さまざま 17 あるのですが、これを実現するための原動力とは一体何なのということなのです。私が考えるのには、ここに足りないのは、やはり市民が主役でやって、市民一人一人がこういう状況を把握して、将来的には人口がこれだけ減ってしまうというような形のをきちんと理解してもらった上で、市民がこういうものに対して積極的な参加をしていくということですよね。水戸にはコミュニティが各小学校区ごとにあって、31 あるというのは全国でも類のない地域行政のシステムだと思っているのですが、そういうものがまさしくこれを推進する原動力であると思っているのです。さっき、これは誰がやるのかと聞いたのは、要は、そういう市民の理解がないと。市民がまちを築いて、育ててきたわけなのだから、その市民に、例えば、おじいちゃん、おばあちゃん、若い世代の方も含めて、そういう交流の中でのサポートとかそういうシステム、ここにもあるように、水戸への移住・定住の推進ということ1つ取っても、この地域に来て受け入れやすいような環境づくりとか、そういうものをこの施策の背景として、土壌として、私はしっかり位置付けをしていく必要があるのかなとちょっと感じたものですから、その辺についてのお考えをお聞かせいただきたいと思います。

【執行機関】今回、骨子ということで、詳細な表現はしてありませんが、当然ながら、総合戦略、そして、総合計画につきましては、市民との協働によって取り組んでいくものということで考えておりますので、今後、そのような形で見せられるように総合戦略案の中で表現してまいりますので、よろしくお願いいたします。

【___委員】市民協働という言葉は大変いいのですよ。それが行政だけが分かっている、市民が分からなくては駄目ですよということを話しているの、ぜひそういう部分をしっかり精査していただきたい。

実は、この中でも、公共交通機関、今、___委員が話していたけれども、公共交通機関も、中心市街地の循環バスは、きっと儲かっていないと思いますよ。それでも、その循環バスを通していただいているということは、民間の企業の負担があるということです。これまでに、具体的にどんなことをやってきて、どう足りないのか、民間の企業だけに負担をかけていないとか、1つ1つの都市の交通ネットワークもありますが、そういうのをチェックするのも必要なのではないのかなと感じました。今までやってきたものを放らないで、どういう成果があつて、それが例えば市民の福祉の向上にどうつながったとか、そういうものも大きなテーマの中で、これまでにやってきたこともチェックし、調査するというのも必要なのかなと思います。

今、水戸市では第6次総合計画を推進していますし、認定中心市街地活性化基本計画もやっているはずで、それとこれがどうつながるのかとか、

そういう部分もしっかり整理整頓をしていただきたいし、それでそういうものも全て市民が主役で、市民が一番大事であるということを忘れないでいただければと思います。

【座長】御意見としてということによろしいですか。

【__委員】はい。

【座長】__委員どうぞ。

【__委員】どこまでが話の中で全体の流れなのか、どこまでが細かいことなのか、私も判断していなかったのですが、最初にシステムのことだけ聞かせてもらいましたが、もう全体の方向性まで出ているので、私からも一言意見ということで発言させていただきます。他の市町村に比べて、水戸の定住人口を増やすのというのは仕事が増えれば増えますよね。例えば、田舎の方に仕事があったからといって、そこに住むかという、住むかもしれないけれども、住まないかもしれない。私は48歳ですが、私たちがよく聞く、同窓会でも何でも、東京で年収800万円の方がいらっしゃる。水戸に戻りたい。お父さんがもう調子悪いので、400万円でも仕事があれば戻りたいということ。それから、今、__委員からも言われたように、やはり仕事がメインになっていく。仕事が増えれば水戸の定住人口は増えていく。そして、その後にダイバーシティの問題があったりいろいろな問題が出てくる。当然ながら、保育の問題も出てくるでしょう。

そう考えると、先ほど言ったように、全体としての予算は全国でばんばん出てくる。しかも紋切り型の同じような施策を並べたのでは、基本的に何をやっているか分からない。しかも、その施策の中に、これまで水戸市で推進してきたものも入っている。そんなところに予算をかけるというのは、もともとかかっているわけですから、皆さんの意見はそれぞれあるでしょうけれども、やはり仕事を増加させるという部分に特化して、特段の政策を出していくような特色あるやり方をしないと、水戸市のまち・ひと・しごと創生関係は恐らく他と一緒に、いつも国が押しつけてきた、お金は大してくれない、東京と闘え、こんなの闘えない、程度のことで終わって、ただ流れていってしまうことであると思いますので、皆さんの考え方やそういうのを踏襲して、やはりどこかに特化すべき。しかも仕事を増やすことに特化すべき。そうすれば水戸市の人が増える。人が増えればまちは動きます。当然ながら、ただ増えるのが高齢者だけでは駄目。税金を使っていく人だけでは駄目。それから、言い方は悪いけれども、若い人、教育を受けている人も税金を使う人です。そうすると、やはり生産人口を増やす、仕事を増やす、この部分に特化してもいいのではないかと私は思っており、私の政治信念でもありますので、それは皆さんの意見もあるでしょうから、そうではないよと。それから、もっと優しいまちなのだよと。そういうものもあるでしょうけれども、私はそう特化していく。

そこに全体の力を傾注すべきと思っていますので、皆さん、今、全体の流れを発表していたみたいなので、それだけ言わせてもらいます。

【座長】 ____委員どうぞ。

【 ____委員】 今、 ____委員がおっしゃったように、やはり職業を多くさせるのは職種が多くないと駄目だと思う。何で東京に流出した人が戻ってこないかというと、魅力ある職場がないからなのです。例えば、東京には遊ぶ所がたくさんあります。それは水戸から1時間ちょっとで行けるので、それが魅力で向こうに住む人はいないのです。やはり、ある程度きっちりした、やりたい会社とか、そういうところがある。

例えば、医療の業界で、茨城県立医療大学があります。その卒業生はみんな東京へ行ってしまうのです。茨城県の税金を使いながら茨城に残らない。なぜかという、向こうに大きい病院、いい病院が多くあるからなのです。だから、そういったところを考えますと、水戸にいても東京に流れなくても済むような職業、仕事の場をどんどんつくるところがまず1つなのです。

それと、これは水戸のまちをどう良くしようかと考えた場合に、マイナスの方をつぶしていくか、プラスを伸ばしていくかというところの両方あると思うのですが、世代によっていろいろ問題を抱えているところがたくさんあるのです。世代によって全然違うのです。例えば、先ほど、若者がなかなか職業に就けない。要するにハローワークにたくさん行く。若者がちゃんとした定職に就いて、しかも正規の社員だったら、お金が稼げるから、稼げれば遊べるのです。彼女ができるのです。そうすると結婚して子どもが成せるのです。それができないパートばかりだったら、結局、自分のお金が貯まらないから独り者でいるしかないというような流れなのです。例えば、子育て世代だと、子どもに金はかかる。自分の父ちゃんはいっくビになるか分からない。あわせて今度は親が介護だと。病院で金がかかるというように、それぞれ世代によっていろいろ負っているのです。そこをまずクリアしていくマイナスつぶしをやるのか、それとも、どんどんプラス指向で、マイナスの方にはあまり手をかけないでプラスの方に金をかけていくか。そういう発想の切り返しといいますか、どこにポイントを置いていくかということで施策のやり方は変わってくると思うのです。

全然話は違いますが、私、2、3カ月前に宇都宮の方と知り合いになりました。交流をしているのですが、宇都宮は人口が40万人なり50万人います。宇都宮の方が水戸を見たら、水戸は人口50万人ぐらいいるのでしょうかと言われたのです。いや、そんなにいない、27万人ですよ。そのくらいしかいないけど、水戸にすごく憧れているのです。それは、もちろん、水戸光圀とか徳川御三家というところもあるのでしょうかけれども、宇都宮から見ると、宇都宮は何もない。干瓢しかないあそこのまちから見ると、

水戸というのはすごく魅力的なまちだと。俺は住んでみたいというような話まであったのです。

だから、自分たちだけで、水戸の人間が水戸の課題を解決するよりも、県外とかもっと他の地方の人の意見を取り入れて自分たちをさらに磨くという形も1つのやり口、切り口ではないかなと思いました。

【座長】先ほどの私のストーリーみたいなどころとも関係をして、出し方、見せ方ということかと思うのですが、特に仕事づくりが大事なのではないのかというところが、複数、意見として出されたということかと思しますので、御検討いただければと思います。

長くなっていますので、一旦、休憩を挟んで、次に個別の施策にいきたいのですが、よろしいでしょうか。

では、3時25分再開ということで、一旦休憩に入ります。

[休憩]

【座長】それでは、時間となりましたので、再開させていただきます。

全体的な話でかなり時間も取ってしまっておりますが、ここから、それぞれの目標は大きく4つの柱がありますが、それに沿って進めていきたいと思えます。

ただ、時間があるといっても限りはございますので、1つずつの目標について最大15分ぐらいの感じで進めていければと思っております。

それとあわせまして、あらかじめお知らせしておきますが、もちろん、ここだけで終わりということではありませんので、この会議終了後も、随時、文書で御意見を求めるということは今回も引き続き行っていくということでございますので、もし時間が足りない場合には、そのような形での対応をお許しいただければと思います。

それでは、4ページから6ページが基本目標I、生き生きと働けるしごとを創るということに関してでございますが、それぞれの事業、施策を立案されてこられた担当課の方にもお越しいただいておりますので、具体的なことも含めて御質問、御意見をいただければと思います。いかがでしょうか。

____委員どうぞ。

【____委員】前段でいろいろ皆さんのお話を聞きいていたのですが、私は、今回のテーマ、まち・ひと・しごとということではありますが、しごと、ひとが集まってまちができると読み替えてこの会議に出ているつもりです。

先ほど来から言っています仕事の雇用創出、私もこの部分に特化して考えていくべきなのではないかなと思っている中で、創業支援事業計画というのがございます。新規創業件数で、2014年度ベースで37件の新規事業があったのだという読み方をすればいいのかなと思っておりますが、ここに新規雇用者数というところが読んでいないのです。37件の新規創業者が

いて、しかし雇用が読めないというのはどういうことなのか、まず、その説明をお伺いします。

【座長】 5 ページの下段、具体的施策 3 の K P I の表がありますが、その 2 段目の基準値ですね。ここが空欄なのだけれども、どういうことかということですか。

どちらに伺っていいか個別に分からないのですが、関係課の方がいらっしやればお願いいたします。

【執行機関】 ただいま ____ 委員から御指摘がございました創業支援事業計画推進事業等による新規創業件数と新規雇用者数の件でございます。

この創業支援事業計画につきましては、昨年度、水戸市、そして、関係する金融機関、さらには商工会議所等で構成します創業支援事業計画のそれぞれの事業者に基づきまして、年間 40 件程度の新規創業を目指していくという計画を打ち立ててございます。

この新規の創業につきましては、個人事業主を中心とした新規創業を予定してございまして、この個別の新規創業に当たっての雇用というものについては、現時点では具体的な数値の目標を立ててございません。

今後、この創業支援事業計画のそれぞれの事業主体であるネットワークにおきまして、さらに新規雇用につながるような事業計画を打ち立てまして、目標値を考えていきたいと思っております。

【 ____ 委員】 いや、私がお伺いしたのは、そうすると、37 件あったのだけれども、これは全部個人事業者で、1 人でやっているということですか。

【執行機関】 この新規創業件数につきましては、個人事業者、そして、雇用も含めた創業者というものもございしますが、2014 年の段階で、新規雇用者も含めた調査が未実施になってございます。

これにつきましては、明確な目標値を立てて、この中で精査をしてまいりたいと考えてございます。

【 ____ 委員】 終わったことですからいいのですが、37 件創業者があったということになれば、当然ながら、そこに何人ぐらいの雇用が生まれて、どういう経済波及効果があったのかということは、補助金その他を出している以上、整理すべきだと思います。

したがって、その件についてはいいのですが、これまで、水戸市としては、新規企業誘致ということで、補助金を今回も増額しながらやっているわけですが、新規企業の誘致がなかなかできないということが現状なのかなと思っております。

一方では、工業団地に空き地があっても、なかなか工業団地の活用ができていないということもあって、この出鼻で、このところを何とかクリアしていかないと非常に厳しいのかなと思っておりますが、企業誘致に対しての考え方についてお伺いさせていただいてよろしいですか。

【座長】方針ということでしょうか。

【執行機関】5ページにあります企業誘致促進事業による新規企業等立地数につきましても、基準値としては、新規ということで、具体的な件数はございません。

昨年度、平成26年度におきまして、水戸市におきましては、この新規の企業誘致を積極的に推進するという考え方のもと、これまで上限3,000万円の補助金をつくっておりました。昨年度からは、この企業立地にさらに力を入れるために、企業立地に関しまして、上限2億円の企業立地の補助金を打ち立ててございます。

今年度、東京都を中心といたしました2,000社に及ぶ企業に対しての立地意向等の調査を実施いたしまして、そこから絞り込みを行って、具体的には100社から200社にかけての企業立地に向けた取組を、今年度、推進していくということを予定してございます。

次年度以降、その企業立地が実現できるようにさまざまな取組を進めてまいります。

【委員】今、200社ぐらいに絞り込んでということではありますが、それはこちらが働きかけをしようとしている会社なのか、それとも、水戸市のいろいろな助成策について興味があるので手を挙げてきたところがそういう状況なのか、お伺いしてよろしいですか。

【執行機関】現在、2,000社のアンケート調査を進めているところでございまして、その中で、地方への企業の移転、あるいは分社化等の考え方がある企業を200社程度絞り込むというものでございます。その200社に対しまして水戸市として積極的にPRをしていく。さらには、企業誘致の助成制度などの周知を図っていったら、企業誘致実施策を推進していくという考え方でございます。

【委員】企業誘致については、今、そういったことでやられているということですから、それはそれで頑張っていたきたいと思いますが、この企業立地の場所、こういうのも水戸市ではある程度カバーする、若しくは斡旋する、若しくはこういう場所がありますよというような法令も含めて、そういう支援策についてはお考えいただいているのでしょうか。

【執行機関長】ただいま御指摘いただきました企業立地を行う場所でございますが、水戸市内には東部工業団地をはじめとした工業団地がございまして、現状としては、大規模として空いているところはございません。

したがって、現在、工業系の用途を中心として、ある程度企業誘致ができるような土地の調査を行うとともに、茨城県の宅地建物取引業協会と連携をいたしまして、誘致に向けた土地の斡旋等の情報交換を進めているところでございます。

【 委員】最後にしますが、企業立地というのは、法的な問題も含めて、非常に難しい分野であります。ある企業が水戸から那珂市へ行きました。この時に、水戸から出ていった理由は、排水処理に対して水戸と相談してもらちが明かない。那珂市は2人の担当者をつけてクリアしてくれた。したがってそこへ行った。これは上場会社ですよ。

そういう状況がこれまでもあるということは、企業立地を真剣に考えるという姿がなかなか業者の人に分かっていただけではないような状況があるのではないか。あくまでも水戸は県都であるけれども、産業立地という部分については後発ですよ。ものすごく遅れているのです。ですから、そういうところを認識しながら、企業立地については十分力を入れてやっていただきたい。ここが解決されれば、私は、ある程度、まち・ひと・しごとの総合戦略は、あとは働く人がどこに住むかとか、どういう福祉、どういう教育環境、どういうことがあるのかということにつながるわけですから、その部分については、県都水戸としては、相当数力を入れながらやっているのだと思います。

したがって、この辺については、私は何としても産業立地が一番だと思っていますので、その辺については十分力を入れて進めていただきますようお願い申し上げます。

【座長】これでほぼ10分経ってしまいましたので、大変申し訳ございませんが、1問1答というよりは、一括質問、一括回答という形式で、この場は人数が多いので、よろしく願いできればと思います。

 委員どうぞ。

【 委員】6ページの具体的施策（4）の女性や高齢者の活躍支援というところで、KPIは、市内事業所での女性の管理職の割合10%ということですが、目標値はこれからということなのでしょうけれども、まさに女性の輝く社会というのは今の政権の中での大事な施策の1つですが、高齢者をここに一緒に入れたということ、私はすごく評価いたします。

その中で、管理職が10%ということで、実は、国は、2020年までに30%、あらゆる立場の指導的役割で、2030というのですが、その中で、当然、女性の管理職も3割ということを目指しておりますが、水戸市としては、その下にまたポジティブアクション、これは強制的というか、格差是正措置ということで、何%置きなさいというようなことで、登録企業数が水戸市は8社ということなのですが、この辺の施策に対して水戸市はどのような形で実現に向かおうとしているのか。数字だけ出すのは簡単なのですが、その取組をどんなふう考えているのか伺えればと思います。

あわせて、中高年、若年層、女性等の雇用促進及び能力開発支援事業ということもありますが、この辺りについてお答えいただければと思います。

【座長】こちらも担当課がどちらかちょっと分からないところですが、担当課をお願いします。

【執行機関】ただいまの御質問に関しましては、水戸の場合、個人的などといいますか、女性に対しての働きかけ、さまざまな女性が活躍をするためのということで、キャリアアップですとか、あるいは、会社を起こす企業の支援というようなことで講座等の開催もこれまではしてまいったわけですが、今後は、これまでちょっと手薄であったというような部分で、事業所向けの事業主の意識改革をしていただくというところが必要になってくると思います。そこから女性の登用ですとか職域を広げていただくとか、そういったことにつながっていくのではないかとこのところ、事業所向けの女性活躍を推進していくような、そういう取組の手法ですとか、あるいは、得られる効果といったものを1つにまとめたマニュアルのようなものを、今、作成を検討しております、また、それに対して、それをテキストとしての事業所向けの研修会等の実施だとか、そういったことで少し事業所に対しての働きかけをすることによって、先ほどの市内事業所の中の女性管理職の割合、これは2013年度でまだ10%ということで、2020年までの30%というのは、そこに持ってくるのはなかなか難しい数字ではありますが、そういった事業所への働きかけを通じて、少しでもこの数値を上げていければと考えております。

【___委員】今の講座等では絶対に女性の管理職が3割にいくとは思えません。ポジティブアクションも含めながら、そして、同時に、今、見える化、数字がきちんと市民に見えることがとても大事かと思っておりますので、どこの企業が管理職をきちんと位置付けして登用しているのかというようなものを何らかの形できちんと見える化ということも考えていかないとなかなか2030年までには遠いような気がしますので、これは要望といたします。

【座長】___委員どうぞ。

【___委員】先ほどの大きなところで話した方がいいのかなと少し思ったのですが、個別のところでも少しお話しさせていただきたいのですが、例えば、具体的施策（1）などですと、地域経済をけん引する産業競争力の強化ということで、重要業績評価指標を挙げられているのですが、これが基本になるということで考えてよろしいのですか。

【執行機関】先ほどもお答えしましたが、今、各課からの原案をもとにこちらは設定してございますが、今後、実施される主な事業の位置付けにおいては見直しも十分考えてまいりたいと思います。基本的にはこういう形の考え方を設定してまいりたいと考えております。

【___委員】先ほどの大きなところの話で、この会議自体の中で仕事を創出するところ、重点を置いた総合戦略をつくった方がいいということでしたので、そう考えると、重要業績評価指標というのがこれでいいのかという

ところがあります。例えば、私が業績指標をつくる場合に非常に重要だなと考えるのは、先ほどの中間報告の水戸市人口ビジョンの数値のところだと思うのです。

例えば、人口ビジョンの9ページ、これは産業別の人口状況になりますが、先ほど御説明があったように、表を見ても、卸売業、小売業というのが水戸の一番雇用が多いところになるわけです。こういったものは、先ほども委員の方からあったように、サービス業なので、人が減ると必ずここは大きなダメージを受けてきます。それを伸ばすために、雇用者数を維持、あるいは増加させるための施策であるのか、あるいは、そのための指標になるのかとか、そういったことを考えて、人口ビジョンとこれは別というものではなくて、表裏一体のものであるはずですので、この現状のデータを読んで、それを補完する、あるいは強化するためにこういう施策が必要で、そのための指標はこういうものですよというふうに設定しておいた方が、もちろん、施策の効果を図る上でも重要になってくると思いますので、それはこれに限らず、例えば、具体的施策(2)、観光産業の振興、観光消費の拡大とあるのですが、先ほどの人口ビジョンの9ページを見てもらうと、例えば、それに関連する産業というのは宿泊業とか飲食業というものがベースになってくると思います。例えば、今出ている重要業績評価指標を挙げられていますが、では、これと宿泊業とか飲食・サービス業との関連性とか、そういったものが見えるようになる指標というものを設定していった方がいいのかなと思います。

【座長】人口ビジョンとの整合性で課題を設定して、指標を設けるべきだという発言かと思います。

それから、同じ戦略の中でも、例えば、後ろの方で、看護師・准看護師数というものが出てきますが、5ページの具体的施策(3)では、医療・福祉分野における人材の確保等とあるわけですが、そういったあたりに整合性を持たせて、この分野では雇用をどう創出するのか、そのために何をするのかみたいなつくり方はできないかなという気は私もしているところです。

いろいろなところに出てくるのだけれども、保育士を増やすとか看護師を増やすとかというのは全部仕事の話ですから、そういう指標は1つに固めた方がいいかもしれないとも思います。

ということで、25分ぐらい経ってしまったのですが、どうしてもという方がいらっしゃれば、お願いします。

____委員どうぞ。

【____委員】座長の話と基本的にはかぶるのですが、全体の1番目が、多分、最も重要と思っていらっしゃる項目として仕事を挙げられているのだと思います。

それで、仕事をつくるのに当たってのKGI、最重要目標指標が一番上の数値目標なのだと思うのですが、そこがどちらかというところまで遠くまで達している感じがしています。というのは、従業員数と総生産という何によって到達したのかなかなか分かり難いような目標になってしまっているの、難しいかなと思っています。

それで、後ろの方に、今、座長がおっしゃったように、個別に出てくる、例えば、10 ページには企業説明会への参加企業数や就業者数が出ていて、さらに、7 ページには地元企業への就職率というようなものが出ていて、本当にこの仕事で何人の方が水戸に帰って来られたり直接就業されたかということもKPIになさったほうが見えやすく分かりやすいのではないかと思いますので、まさにこのキーになるような指標を抜粋して、さらに言うと、あまりKPIを多くしますと、何が重視されているのかということが分かりにくくなるかと思います。

最初の話と一緒になのですが、全部のやることを書くのは計画です。その中で、何を予算の範囲で優先して、順序立ててやっていくかを書くので、今回は戦略となっていると思います。ですから、戦略的に何を重視してやっていって、どういう順番でやるのか、これを決めるのがKPIとKGIということだと思うので、あまり多くなってしまうと、何を重視しているのかが見えにくくなると思いますので、できれば仕事関係は集めてあった方が分かりやすいかと思います。

御意見でございます。

【座長】ということで、時間が限られておりますので、どうしてもという方がなければ次へいきます。時間がまたできれば、全体を振り返ってということをお願いいたします。

では、基本目標Ⅱ、新たなひとの流れを生み出すが7ページから9ページまでとなっております。この基本目標Ⅱに関しまして、御質問、御意見あればお願いいたします。

____委員どうぞ。

【____委員】この2つ目の基本目標、新たなひとの流れを生み出すで、数値目標にも定住のものと観光のものが2つ書いてあり、ヨーロッパが良いというわけではありませんが、例えば私たちがヨーロッパの街を見てなぜ良いと思うか、何で観光に行くかという、美しい町並みがあって、そのカフェから出張するようにして歩道でお茶を飲んでいる、あの人たちのライフスタイルが私もやってみたいとか憧れるわけですね。これは町並みとライフスタイル。ライフスタイルには、もちろん、ヨーロッパですと、夜、オペラに行くとか、そのまちにある施設を日常的に使って生活を満喫している姿を私たちは見るわけです。それで、こんな町並みであんな暮らしぶりをしてみたいと思ったら、また遊びに行きたいと思うし、あそこに仲間入

りしたい、住みたいと思ったりするわけです。

そんなふうに考えますと、ここの新しいひとの流れを生み出すというところに、7ページの一番下にまちなかライフスタイル発信事業とありますが、具体的にどういうライフスタイルなのでしょうということが気になるわけです。例えば、芸術館とか歴史館とか偕楽園とか弘道館とか、芸術・文化、歴史、自然の資源がまちの中にぐるとあるわけですから、きっと外の人が、水戸の人みたいな暮らしぶり良いなと思うのだったら、そういう資源を日常的に私たちが使っている姿を見せるということだと思のです。現実にはどれだけ使っているか、あるいは使いづらいとかいうこともあったりすると思うのですが、そういう、美しいまちづくり、またその中の資源の活用ということとライフスタイルが溶け込んでいるというか、セットであるということがとても大事なのではないかと思うのです。

このライフスタイルもそうやって具体的に表現すべきだと思いますし、美しいまちづくり、こんな町並みという表現がここにはないような感じがするので、そういったことも戦略としてとても大切ではないかなと思っております。

それと、このライフスタイルというのはきつともう1つあって、例えば、ギリシャというのは、観光資源が歴史的なものとエーゲ海とあって、超一流のものがあるのですが、崩壊してしまっているのです。それが、よく言われるように、フランス、イタリアとの違いは、観光に来た人の観光産業というか、お土産がないのです。フランスとかイタリアといったら、ワインを買ったり、洋服を買ったり、雑貨を買ったり、観光と産業がくっついているのです。これが観光産業というものだと思うのです。だったら、水戸もそういうものを用意しないと、観光産業、せっかくお客さんが増えても水戸は潤わないと思うのです。

でも、それはライフスタイルとの関係で、水戸で暮らす人が日常的に水戸の産物を満喫していて、すごくいいね、おいしそうだねとか、あるいは、提灯を日常的に使うというのものもあるかもしれませんが、そういった売べきもの、水戸が誇るものを私たちがまず十分に使っている姿を見せる、そういうライフスタイルを発信していくことが大事であり、こういうことを戦略に盛り込んでいただければと思っております。

【座長】担当課の方から何かコメントございますでしょうか。どうぞ。

【執行機関】ただいま____委員から御指摘ありましたまちなかライフスタイルでございますが、この事業に関しましては、現在策定をしております中心市街地の活性化基本計画の中で大きなビジョンの中の1つとして描いているものでございます。

水戸市におきましては、定住人口を増やしていくという考え方の特に中心市街地 570 ヘクタールにまちなか居住というものを増やしていきましょ

うという考え方を持っていてございまして、その1つとして、まちなかに住むことによってこれだけ良いことがあると。例えば、今御指摘がありました芸術・文化といったクリエイティブな暮らしができる。または、まちなかに住むことによって、職と住が近接したところでの利便性が高まる。こういったまちなかでの暮らしのよさを発信して、まちなかへの定住化を図っていこうという事業でございまして。

この具体的な内容につきましては、現在、中心市街地活性化協議会の中でも詰めているものでございまして、こちらの戦略とあわせて整理をしております。

【座長】担当課をお願いします。

【執行機関】お土産品のことについて御説明させていただきます。

お土産品につきましては、これからどんどん新しいものを開発していこうということで、基本目標Ⅰの方で新たな土産品の開発ということで挙げさせていただいています。既に、オセロチョコというもので、オセロが水戸発祥の地ということでチョコレートなどを開発しているのですが、このような水戸ならではのところを活用したお土産品を開発するとともに、 委員のおっしゃったライフスタイルと合わさったような食などにつきまして、例えば、納豆につきましてはかなり消費量が高く、お土産が中心として販売されているところですが、それを、例えば、実際に食するというような方向性で検討できないかということも考えていくとともに、スイーツなど消費量の高いものを特徴とさせた水戸のライフスタイルを観光客に楽しんでもらうようなことも考えてまいりたいと思います。

【座長】 委員どうぞ。

【 委員】今、 委員がおっしゃったことは十分理解できるころなのですが、市民の意識の醸成というか、こういうところが水戸市はあまりにも後退しすぎている。駅を降りて、近くに行ったり、タクシーの運転手さんに聞いて、水戸市で何か見る場所はありますかとか、おいしいものはありますかと言うと、「水戸は何もねえよ」となってしまうのです。

逆に言うと、では、黄門まつりの花火の時なんかどうなのだろうというのと、「いや、土浦にはかなわねえよ」。では、黄門まつりはと言うと、「七夕まつりにはかなわめえ」って、こういう話になってしまうのです。

水戸市民の一番悪いところというのは、今、 委員がおっしゃったように、おいしいから食べてくださいという意識がないのです。粗末なものですけれどもとか、粗品ですけれども、こういう発想が、まずいものをくれたみたいな感覚になってしまう。だから、水戸市はこんなおいしいものがあるって、水戸の納豆は他の納豆よりおいしくて天下一品なのだから食べてごらんという意識の発想がないというように感じます。

だから、水戸は東京からの有利な地理的条件にあったとしても、水戸に目が向いてこない。こういう観光に対する意識というか、この醸成というのが、オセロチョコレートと言っても、もうちょっときちんとしたPRとか、みとの魅力発信課とかでももちろんやっているのですが、こういうところをもっとPRする、宣揚していくことが必要なのだろうと思っています。

ですから、例えば、今、議会でも、新しい市民会館をつくるということで、泉町1丁目にコンベンションホールをつくる、また東町の体育館を直してスポーツコンベンションホールをつくるという流れがあります。

ただ、ものをつくるという発想だけではなくて、当然ながら、10年ぐらい前に、ちょうど消費者金融が真っ盛りの頃に、駅前に降りるとほとんどサラ金の看板だけだったのです。今はそういう状況がなくなって、水戸駅に降りると水戸のイメージが湧くような状況になってきましたが、基本的に景観条例などができてきて、では、水戸のまちというのは、東京と同じような、政令指定都市と同じようなまちづくりで、まちづくりの顔というのがそれでいいのかという話になってしまうのです。

例えば、仙台とか札幌とか名古屋などは、片側4車線の道路の中に空間的にまちができていますから、建物を建てる場合にも、地方独自の、水戸市ならではの緑地部分を残したところの公園化をしていくとか、こういうことがないと水戸市の独自性はできてこないと思うのです。

ですから、建物を建てるだけではなくて、もうちょっと水戸市のまちの顔づくりというか、ここの基本的な考え方をまずつくっていただいて、そこにどういう施設を持つてくるのかという発想が欲しいなと思っています。

これは意見として申し上げておきますが、もう1点は、先ほど、___委員から地域のコミュニティという話がありました。お年寄りであるとか、水戸市も見守り隊とかそういう形で、コミュニティが大事だということはもちろん分かっています。

ただ、皆さん御存じのように、町内会に入らない。それから子供会に入らない。市報が届いていないところが30%ぐらいの所帯となっている。その時に、この人たちを無理にコミュニティの中に引き込むということは無理なのです。

ただ、孤立してしまった若いお母さん方が子どもを生み育てていく中で、いろいろな形で悩みを持たれた時に、行政として何ができるのか。そうすると、子育て、それから結婚という場合の相談の拠点みたいなものをきちんとネットワーク化して、孤立していてもいつでも相談には行けるような拠点整備が最も大事なだろうと思っています。

そういう面では、高齢者に対しては、見守りだとか生活の買い物補助だとか、こういうことももちろん大事だというのは分かるのですが、その30%の孤立した若い世代に対してどう対応していくかというのは、自分自

身も一番懸念している部分ですので、この辺に対する対応を改めてお聞きしておきたいと思っていますので、後段の方だけ答弁をいただければ有り難いと思います。

【座長】 次の基本目標Ⅲにも関わるところかなとは思いますが、新たなひとの流れをというところと言うと、そういう要素がそもそも必要ではないかと言われれば、そういうことだということ、ちょっと強引ですが、ここで出ましたので、担当課がいらっしゃれば、子育て関係のところになりますか。あるいはコミュニティ振興になりますか。

【執行機関】 子育て支援の視点で、地域のコミュニティの力をいかに生かすかという御指摘かと思いますが、本市におきましては、2カ所、子育て支援多世代交流センターという施設を持っておりまして、子育て世帯を中心とした施設ではございますが、多世代の交流を目的といたしまして、子育て世帯のまち全体での支援、そして、交流を生み出そうということで施策を推進しているところでございます。

また、一方では、資料の11ページになりますが、具体的施策(2)の重要業績評価指標の中段に市民センター子育て広場開設数という数値を掲げさせていただいておりますが、こちらはまさに地域の力をお借りして子育て世帯を支援しようという取組でございます。現在、31 ございます市民センターのうち10カ所において、地域の女性会など、団体さんのお力をお借りして開設しているというものがございます。

こちらは年次的に2カ所ずつ拡大したいということで、それが市域全体に広がればということで取り組んでおります。

【座長】 この点は他の方も発言したいところがあると思いますので、また後に回します。

他に、基本目標Ⅱについてはいかがでしょうか。

___委員どうぞ。

【___委員】 7ページの定住化ということで、転入・転出による人口の増減がありますが、これも、どういう人たち、どういう年齢層を増やしていきたいのか、もっと絞り込んだ目標があるべきではないかなと考えます。例えば、20歳から30歳でもいいですし、どの世代の人口をより集中的にケアしていくのかという指標があればいいのかなと思いました。

【座長】 コメントございますでしょうか。

では、事務局。

【執行機関】 ただいまの御意見につきましては、今後、人口ビジョンの策定を進めていく中で、さらに呼び込んでいくターゲットの世代についても絞り込んで表記をさせていただきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

【座長】ここで、もう1点、具体的施策（1）のところで市内大学というのが出てくるので、コメントなのですが、各大学も、県などと同じく戦略をつくるに当たって、県内に留まる学生、あるいは、地元志向の意識づけみたいなことが問われてはいるのですが、前回もお話ししたかもしれませんが、茨城キリスト教大学とか常磐大学は9割ぐらいが地元就職をしている。それから、茨城大学も、学部によって違うのですが、例えば、人文学部では、より精査すると4割ぐらいが県内には就職している状況です。

地元といった時に、県レベルだとそうなのですが、その中で特に水戸市に働くだけではなくて、自宅が他の所にあるつつも、水戸に来て住んでくださいよという戦略をもし持っていくとした時に、この指標では意味がないのではないかと思います。県全体としてならまだ分かりますけれども。

そこで、先ほどのターゲットがという質問とも重なるわけですが、もう少し、中山間地域でもなく、海があるわけでもなく、どこからどういう人に来て住んでいただくかということ念頭に置いた施策を考えていらっしゃるのかというのはクリアにした方が良くないかなと思います。

他に基本目標Ⅱはよろしいでしょうか。では、また一巡して時間があればということにいたします。

では、基本目標Ⅲ、水戸の未来をリードする若い世代の夢や希望を応援するというところで、10ページから12ページまでの施策についてです。いかがでしょうか。

では、口火をとということなのですが、今、実施していることとの整合性とか、その延長線上でという条件がつくので、こういう指標や施策がということはよく分かるころはあるのですが、実際、うちの大学でも自治体などとこういう研究を行いまして、特に、___委員も先ほどおっしゃいましたが、お母さんが孤独に陥っているという問題が非常に大きいということです。場所を提供する、開放しているからいつでも相談に来てくださいということなのだけれども、そこまでではないけれども、行き詰って本当に困ったら行くと思います。もうちょっと日常的に息抜きができるとか、少しゆとりを持てるような時間が欲しいとかというようなニーズが結構あるというところで、1つは、こういう支援をやっているようなNPO等もありますので、もう少しそういうところに何がニーズとしてあるかということ聞いた方が良くないかというのがあります。

それと、もう1つ、私がそういうところで聞いた限りですが、今、一時預かりをわんぱく・みと等でやられているとか、少しはありますが、それは予約で決められた時間には預けられるけれども、とっさの時には無理な状況です。そういう時に、ほんの1時間でいいから息抜きをしたいとか、自分が病院に行きたいとか、そういう時に緊急避難的にどこかで誰かに預かっていただくというようなことが、近隣でネットワークを持っていれば

いいけれども、持っていない場合、どこに相談したらいいのかという辺りがかなりネックになっているのではないかと思います。

ですので、保育施設等も含めて、何らかちょっとした預かり等がやれるような場所、システムを目に見えるところに出してこられないかなと思っておりますので、御検討いただければと思います。

口火を切らせていただきましたので、他の皆様もどうぞ。

___委員どうぞ。

【___委員】結婚しても子どもができて働き続けられる環境を整備するというところで、企業としての取組を考えられる部分としましては、事業所内の学童保育というものも1つ考えているところです。その辺のところの市から取組に対して支援をいただければと考えております。

【座長】他にございますでしょうか。あるいは、逆に、担当課の方からコメント等ございましたら。

___委員どうぞ。

【___委員】10ページの若者へのキャリア支援の推進のところ、上段の企業説明会参加企業数というのがありますが、やや形式的な感じがしまして、若者へのキャリア支援というのは、先ほどハローワークのお話もあったように、非常に大事なところだと思うのですが、例えば、上の数値目標で、子育て支援のところアンケート調査からの満足度というのがありますが、キャリアについてもいろいろな要望とかニーズがあるとすると、例えば、こういうものを満足度という形で表してしまうとか、そういう考え方もあるかなと思いますので、この説明会の指標もあってもいいのかもしれないですが、もう少しちょっと幅広に捉えられるKPIが考えられてもいいのかなと感じた次第です。

【座長】ついでに、この点についても大学も関係するので一言申し上げますが、ここで想定されているのは、何らか市として企画をして、新たな説明会に企業に来てもらうというようなことを何かお考えなのでしょうか。もしお答えいただければお願いします。

【執行機関】ただいま、座長から御指摘がありました若者へのキャリア支援の部分での企業説明会でございますが、これにつきましては、東京の大学に通う地元出身者、あるいは地方出身者向けに、この水戸に将来住んでいただけるような方たちへの企業説明会、市内の企業、あるいは茨城県内の企業を中心とした企業の説明会を企画していきたいと考えてございます。

【座長】市として単独でという、県などと一緒ということですか。

【執行機関】これにつきましては、今、市中の金融機関でも進めている部分もございますし、県としても進めている部分がございます。これについて連携していった方が良いのか、あるいは、産・学・官・金といった取組の中で水戸市単独でやった方が良いのか、より効果的な手法について十分検討をし

ていきたいと考えております。

【座長】1つ、追加的に状況をお伝えしておきたいのですが、今年から就職活動の時期が変わったというところもあって、今年だけのことで読めないところもあるのですが、実際、学生は、就職活動と言えばネットでやるものだと今はもう定着をしております、地元でどういう企業があるのかということを知られていない、関心も持ってもらえないというところで、大学の中でも就職支援センターというのがありまして、企業の説明会等をやるのですが、特に8月までのところでは閑古鳥が鳴いているという状況です。就職活動をしている学生はほとんど4年生がやっているわけですが、地元企業は全く目が向かないみたいな状況すらありますので、ただ説明会をやるということだけではなくて、大学も責任の一端は負うところがありますが、ぜひそのやり方についても御検討、大学とも話し合ってくださいをお願いいたします。

【___委員】___先生にお聞きしたいのですが、___先生もいらっしゃるの、県外から来た卒業生がいらっしゃると思いますが、その方たちが水戸に残られる割合というのは何%ぐらいいらっしゃるのでしょうか。企業がないということもあって、市役所であるとか常陽銀行であるとかという話になってしまうと思うのですが、県外から茨大、常磐大に来ていらっしゃる、卒業時に水戸市に残っていただける、茨城県に残っていただける方というのは、今現在、どの程度いらっしゃるのでしょうか。

データがなければ、後でまた教えていただければ有り難いと思います。

【座長】データはあるのですが、今は手持ちにはありません。

【___委員】茨城キリスト教大学は大体9割は残りますね。

【座長】出身者がどのぐらいでしたか。

【___委員】出身者が県外の学生は、どのくらい残りますか。

【___委員】9割が茨城県内からの進学者で、そのうち大体9割が残ります。

【___委員】そうすると、あと1割が県外の学生ということになりますが、その県外から来ている学生というのは、県内に残られる割合というのは分かりますか。

【___委員】県内に残る学生もいます。

【___委員】そのデータはあまりとっていないですか。

【___委員】それは個別にはもちろん数字はあるのですが、とにかく残る率が非常に高いというのが茨城キリスト教大学の特色です。ですから、地元の良い企業があるということを非常に願っているわけです。

常磐大学も多分同じぐらいですよ。

【___委員】常磐大学も、基本的には9割が地元で、1割ぐらいは県外から来ます。細かい数字は持っていないので分からないのですが、私の感覚としては、県外の学生は帰る子の方が多いのかなという感じがします。

【___委員】残る方もいるでしょう。

【___委員】残る学生もいますが、大体、県外から来たら自分の地元の方に就職します。

【___委員】そのパーセンテージを上げたいのですよね。

【___委員】そうですね。

【___委員】ただ、その時に、正規の仕事に就ける者の比率というのは低い。6割とか7割で、派遣とかいう形が入って、うちの場合、就職率は95%ぐらいなのですが、正規の仕事で企業に全員が入れるわけではないということです。

【___委員】それで、先ほど___委員が質疑の中でおっしゃったような、職種を広げて、正規雇用の枠を広げていくという努力をしないと、県外から来た方は水戸市には残ってもらえないというパターンですから、さっき座長がおっしゃったような、地域で大学を育てていくというか、その連携の中できちんとした情報を学生に伝えていく。その受け皿も行政としてつくっていくことが大事なような気はしますね。

【座長】ちなみに、茨城大学は、人文学部のことしか正確には分かりませんが、県内の出身者が5割ぐらい、そのうち、就職者の県内に就職するのが4割ぐらいで、6割ぐらいが県外に行ってしまう。ですので、県外出身者は、多分、8割ぐらいが県外に行くのではないかと思います。

それで、県ともそこをどうやって上げようかというような話はしているところですが、もちろん水戸市さんとも一緒に取り組んでいく必要があると思っております。

【___委員】では、それに関して。

今、銀行で、県外の調査をやっているのですが、まだ未発表で、集計中なのですが、その中で、茨城の大学に県外から来て首都圏に勤められた方々を対象にしたアンケートも実は行ってしまっていて、茨城県出身者ではなくて、茨城に学校だけ来て、学校を卒業したけれども首都圏に勤められたという方々のアンケート調査もやっています。

茨城県に住もうと思われたことの確率というのは結構ございまして、ただ、タイミングとしては、多分、転職の時が一番多いのかなと。まだ未集計なので確実な話ではないのですが、大体のところ、転職のところが多いのです。

先ほどのお話にもあったのですが、大学や地元就職の時に、今のところ、新規の就業だけを言っていますが、高校及び大学も3年以内の離職率と転職率が非常に高くなっていて、本当は転職の時にどこを選ばれるのか、あるいは、転職の時にちゃんと地元から声をかけられるのかというところが非常に多くて、先ほどお話があった大学のネットで就業先を探すというふうになった時に、茨城県内で出てくるリクナビ、マイナビの企業は、12万

社ある中の100社程度です。ほとんど出てきません。

そういう状況なので、ネットで探すとなかなか難しいので、水戸市さんなどかも知って、地元のどういう企業さんとどういうセッティングをできるかということは、特にタイミングが、新規の就業だけではなくて、転職の時に重要なかなと思っています。

いずれ調査の結果がレビューできるかと思っています。

【座長】 それでは、大学との関係で言うと、今の時期から本格的に就職活動をやっていますが、卒業間際、1月とか2月ぐらいにかなり力を入れて説明会等をやられると効果的かなという印象も持っております。

____委員どうぞ。

【____委員】 先ほど、定住化のところ、どこの世代をターゲットにしたらというお話もあったのですが、それと関連もするのですが、まさしく若い世代の夢や希望を応援するという水戸の方向性、本当に若い人たちがわくわくして、水戸で働いて、子どもを生んで育てるといようなことは、3番目のところは非常にたくさんのキーワードであり、鍵があるのではないかと思います。

合計特殊出生率1.52が2.07に行くという目標値が私たちにはあるわけですが、外国の話をしてみると、4年前、私はノルウェーに行っていました。デンマークにも行ってまいりました。その時に、2.07という合計特殊出生率の働き方というのは、ワーク・ライフ・バランス、朝、定時に行くよりちょっと遅れて行って、そして、遅くまで1時間延ばして働けるとか、そして、夫はそれに伴って早く帰って保育園へ子どもを迎えに行くとか。もちろん、国の世情は違いますが、そのぐらいの働き方、そして、子どもを夫婦両方で育てていくという環境づくりをしていかないとなかなか定住化にはならないということと、そして、2.07まで行くは厳しいかな。

水戸に住んで良かった。水戸で子どもを育てて良かった。他県の人に来てみると、水戸の環境や水とか食物に関して非常に満足して、本当に良い所だねと言うのですが、そこにもう1つ、先ほどから出ている職場の雇用創出も含めて働き方ということがあるので、このところで、特に高齢、女性の活躍推進ということがありますが、女性もしっかり働いて税金を払えていけるような流れになっていかないと、子どもをきちんと教育をしていこうとか、夢をもっと語れるということにならないので、2.07に行く鍵は、ワーク・ライフ・バランスが大きな重要な鍵ではないかと思っていますので、この辺を、講座とかそういうことではなくて、例えば、水戸市役所の中で育児休業を男性の職員がどのぐらい取っているのだろうかとか、そういうことも含めて今後の方向性についてお伺いできればと思います。

【座長】 基本的方向の中にワーク・ライフ・バランスという言葉も出てきておりますが、企業等との関係という点と、市役所内の労務、人事というところ

ろと両方あると思うのですが、いかがでしょうか。

【執行機関】女性もしっかり働いて、活躍しながら、ワーク・ライフ・バランスも充実させていくという方向性についても、当然、水戸市としては推進してまいりたいと考えております。

具体的にどういう取組を行っていくのかということにつきましては、講座だったりというところで、先ほど答弁があったところではございますが、委員さんの御指摘も踏まえまして、今後、より実効性の高い取組についても検討をさせていただければと考えておりますので、よろしく願いいたします。

【___委員】例えば、放課後児童対策ってありますね。放課後児童対策について、今、10校が1年生から6年生までということ。今後、これは教育の方かもしれませんが、この放課後児童対策について、そのニーズにもあるのでしょうかけれども、これを拡大して、もっと遅くまで、そして高学年まで子どもを預かっていくとお母さんたちは安心して働くことも可能かなと思うので、その辺はどうなのでしょう。具体的に。

【執行機関】小学校の1年生から6年生までの放課後の関係なのですが、開放学級というところで今年度から6年生までに拡大されたわけですが、受け皿的なもの、スペースの問題、そして、支援員の数がまだ足りておりませんので、全学校でということにはなっておりませんが、こちらは平成31年度までということ経過措置がございますので、そこまでは水戸市の計画でも6年生までの放課後開放学級の全希望者の受け入れということ謳っておりますので、現在、それに向けて、施設の整備、そして支援員の確保、そして、それに付随する時間の延長の方も含めて検討しております。

【___委員】市役所の育休の状況はどうですか。

【執行機関】市役所内での育休の取得状況については、データが手元でございますので、後ほどお調べしてお知らせしたいと思います。

【___委員】ワーク・ライフ・バランスというのは、仕事が働きやすい環境整備もとても大事なことで、講座ではありません。それはこのような児童対策であったり、育児休業を取ることを水戸市が率先してやって、企業に先例を訴えながら醸成をしていくことがない限りは、本当にワーク・ライフ・バランスという言葉が、仕事と家庭の両立というのは絵に描いた餅で、いつも母親が苦勞しながら、そして育てていくということなので、男性も一緒になって子育てをしていくという、水戸市は父子手帳もありますし、そういう面で醸成していただければということをお願いいたします。

【座長】___委員どうぞ。

【___委員】ちょっと細かい話で恐縮なのですが、10ページの具体的施策（1）が若者へのキャリア支援の推進なのですが、基本目標Ⅲというのは人口の自

然増を増やすところではないかなと思うのですが、どちらかというところ、具体的施策Ⅰは社会増を狙うというか、因果関係の強さからいくと、自然増よりは何となく社会増、ですから、定住化、あるいは基本目標Ⅰの仕事づくりか、雇用創出か、そちらの方が何となく因果関係が強そうな気がします。具体的施策をどこの下にぶら下げるかといった時、この数値目標との因果関係の強さで具体的施策をぶら下げていかないと、何となくバランスが悪いのかなという気がしました。

可能であれば、これから2019年度の目標値を決めていくのだと思うのですが、今ここでは2014年度と並んでいるので、ややもすると、2014年度がこの数字だから、2019年度はこれに何割増しとかという形で数字をつくってしまいがちになりかねないと思うのですが、先ほど人口ビジョンがあったので、その人口ビジョンを達成するのに、因果関係を考慮して、目標値をこれぐらいに設定しないと人口ビジョン達成はままならないのではないのかという理屈づけを、できれば数値目標の下にぶら下げた施策については、何か御説明できるような形のものがあった方が良いのではないのかなと思いました。

これは基本目標Ⅲに限らずということなのです。

以上、2点です。

【座長】事務局、よろしいでしょうか。

【執行機関】御指摘はごもっともだと十分認識をさせていただいておりますので、人口ビジョンと整合がとれるような形のKPIの設定、そして、事業の設定について検討をしてみたいと思います。

【座長】では、ちょっと時間も押していますので、次の基本目標Ⅳにいきたいと思えます。安全で安心、誰もが快適に暮らせるまちを創るというところで、13ページから残りの16ページまでということになります。この部分についていかがでしょうか。

____委員どうぞ。

【____委員】水戸市の場合には、ドクターカー等の導入も既に全国に先駆けて行っておりますし、ドクターヘリも県で常備された。そして、____先生がいらっしゃっていますが、水戸市の緊急・夜間診療体制についても、休日・夜間だけではなくても、365日、そういう体制が組まれていて、他の隣接市町村でも7%、8%という率で水戸市の緊急・夜間診療所に通っていらっしゃる方が多いのですが、それが当然のように考えていらっしゃるのだけれども、医師会、薬剤師会、看護師会の人的な応援をいただいて、御苦勞なさってサイクルを組んでいただいている。これを市民の方が認識していないというか、当然ながらもうやっているような感じではいるのですが、これは全国に本当に誇れるような休日並びに夜間の医療体制でありますので、これは十分にPRをしていただきたいというか、水戸市の誇りとして、大

きな政策として位置付けていただきたいなと思っています。

また、現実に、3.11の東日本大震災を経験して、水戸市は公共施設の耐震化についても今年の3月に全て終了した。あと残りは若干という。そういうことも含めて、水戸市は、僕も自分の誇りみたいに思っていますが、安心して安全に暮らせる。これについては誇りを持っていいのではないのかなと思っています。

それから、大都市圏に見られるような、これから健康を維持していくのには、かかりつけ医、かかりつけ薬局が必要だといいますが、現実に、これも地域の中で病院の先生方の御努力によってきちんとしたかかりつけ医を求めようとすれば、その病院のかかりつけという主治医を求めることもできる。そういう面では、このデータにあるように、満足度についてはまだきちんとしたものは出ていませんが、ある程度そういうものについては、生活環境の満足度の73%の中でも、相当、医療についての満足度はこれより高くなっているのではないのかなという気がします。

そういう面では、こういうことを、行政も、医師会、薬剤師会、看護師会も含めて、きちんとこれから連携を密にしてやっていただければ有り難いし、これが行政のレベルもアップしていくことが大事だと思っています。

冒頭、____さんから中核市の話が出ました。これは市長が今年の3月に表明したことです。4年後ということになるのですが、3年半後の年度末には中核市に到達するということだと思っています。

もちろん、____先生などのアドバイスをいただかなくてはならないのですが、これから保健所の設置義務が生じてまいりますので、この人的な確保について、今後どのような形で、年次的に、今回も9月の議会に保健所に関する条例も出ているようではありますが、これについて、3年半後の終着点に向けての今後の推移だけ丁寧にお知らせをいただければ有り難いかなと思っていますので、これだけ質問とさせていただきたいと思います。

【座長】担当課、お願いします。

【執行機関】中核市への移行につきましては、現在、茨城県に移譲事務の調査の依頼をしております、これが10月ぐらいにでき上がってくる予定となっております。

その後、その調書をもとに、各所管課と県との間で具体的な詳細な事務の作業スケジュール等について調整をまいります。

そして、それらの移譲事務の協議が全て整った段階で、予定としましては、平成28年度いっぱい全ての事務の移譲について合意が整う予定としております。その後、平成29年以降につきましては、国等とのヒアリングを経まして、その後、市議会での議決、県議会での議決、国への申し出への閣議決定というスケジュールになってまいります。

【 委員】 そうしますと、例えば、保健所の所長はドクターですし、保健所の機能というのは、病院とは違って、所長を頭にしてチームワークで動くような組織なのです。そうすると、中核市が終点になって結論が出た時に、そこから人材の確保をしていくのではなくて、きちんとした事前の流れの中で専門職としての人材を確保していく。ここがスムーズに保健所を運営していく中での流れとしては一番良いのではないのかなと考えているのです。

そういう面では、人材の確保というか、専門職の確保が一番難しい話ですから、この点については十分把握をされながら、医師会、薬剤師会、獣医師会と連携をとりながら、きちんとしたものをしていただければと思います。

今、県で行われている保健所の事業というか、精神衛生、保健衛生、それから公衆衛生も含めて、市として運営された場合には、そこよりもレベルアップして市民サービスが提供できる、良質なサービスが提供できるような形で移行しなければ、やった意味もないということも踏まえて、十分精査していただければと思っていますので、よろしくお願いします。

【座長】 最後の点は要望ということかと思えます。

他に、基本目標Ⅳについていかがでしょうか。

私の方からよろしいでしょうか。

数値目標、一番大きなところで、生活環境の満足度 73.5%と出ているのですが、他の自治体でこういう調査をされているのか分かりませんが、市としては、この 73.5%というのはまだまだ低いとお考えなのか、それとも、いや結構高いではないかという認識なのか、そこら辺は基本的にいかがなのでしょう。これを 8 割とか 9 割に上げていくというのは非常に困難なことかと思うのですが、ということからすると、これを大きな数値目標で良いのかなと思うのですが、いかがでしょうか。

【執行機関】 基本目標Ⅳの柱における数値目標といたしましては、かなり検討をさせていただいた経緯がございまして、その中において、まちをつくっていくことに対して、総合的な判断、数値目標として到達できるもので評価できるものが満足度としてあるのではないかとこのところ、項目として、今回、設定をさせていただいたところとございまして、こちらの基準値につきましては、第 6 次総合計画をつくる際に行いました市民 1 万人アンケートの時の数値を基準値としております。こちらの内訳としては、「満足」というのと「やや満足」というものを合算したパーセンテージになっておりますので、こちらについては「満足」の数字をさらに上げていくようなイメージも想定はしているところとございまして、こちらについては、考え方としては、「満足」を増やしていくようなイメージで項目として挙げております。

【座長】まだまだ上げられるという決意があるのであれば、いいと思います。

【執行機関】上げていくのかどうかということについては、今後、専門部会を通して検討させていただきたいと思います。

【座長】___委員どうぞ。

【___委員】一般的に、生活環境評価をする時には、満足度と重要度の両方を聞いて、掛け合わせて充足度を出していると思うのですが、これは水戸市さんでも同じやり方をされているのでしょうかというのが1点です。

それから、もう1つ、KGI、重要目標達成指標がこれだということで、その後ろにKPIが設定されているということからすると、充足度が一番低いものがKPIに並んでいて、それを改善すれば満足度が上がるということにつながるシナリオになっているのかどうか、その2点を教えてください。

【執行機関】このパーセンテージの出し方については、総合計画をつくる際の市民1万人アンケートにおきましての「満足」、そして「やや満足」などについて、それぞれの占めているパーセンテージです。

【___委員】重要度は聞いていないのですか。

【執行機関】重要度については聞いておりません。

もう1点につきましては、考え方としては、KPIを達成することによって数値目標を達成していくという考え方のもとで設定をしているところであります。

【___委員】満足度が低いものがここに並んでいるということによろしいでしょうか。

【執行機関】そういう満足度が低いものという考え方ではなく、これらのさまざまなKPIを達成することによって、総合的に生活環境とか暮らしやすさというものを改善していき、総合的な生活環境の満足度を上げていくという考え方です。

【___委員】満足度を上げるためには、キーパフォーマンスが何かということを設定しなければならないので、これが上がれば満足度が上がるというふうになっていなければならないと思います。そうすると、今、満足度が低いものがここに並んでいるので、これが上がれば総体の満足度は上がりますよというシナリオなのかなと思ったのです。必ずしもそういうふうに対応はしていないということですね。

【執行機関】はい、対応はしてございません。申し訳ございません。

【座長】大分時間が経ってきているわけですが、最後の項目でぜひという方はいらっしゃいませんか。

では、後ほど説明もあろうかと思いますが、大きな話、あるいは細部の話も含めて、この後も、随時、意見を出していただくということを事務局としても考えているようですので、そのような形でお願いできればと思い

ます。

それでは、議題の3番目になりますが、総合戦略の骨子についてというのは、今日のところは以上にさせていただきます。

それでは、(4)その他についてですが、スケジュールについて等、何かあると思いますが、事務局からお願いいたします。

(今後のスケジュールを事務局から会議資料⑤に基づき説明)

【座長】資料⑤をもとに今年度末までのスケジュールについて説明がございました。

かつ、次回、この会議としては、11月中旬に人口ビジョン(案)と総合戦略(案)について、審議にかけたいという説明がございましたが、そういうスケジュールでよろしいでしょうか。

それでは、11月中旬ということで、審議にかけたいというふうにさせていただきます。

繰り返し申し上げますが、総合戦略などに関わる御意見等ございましたら、事務局に御連絡をお願いしたいと思います。どんな手段でもいかと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、以上で、本日の議事を終了させていただきます。

【執行機関】本日は、長時間にわたりまして御審議いただきましてありがとうございます。

以上をもちまして、第2回水戸市まち・ひと・しごと創生有識者会議を終了いたします。

ありがとうございました。